

「人生一冊～サマーフェスティバル編～」



7月19日職場見学前説明会の様子。ハローワークの方から夏休み中に行う職場見学の注意事項を聞き真剣にメモする三年生

九州北部も梅雨明け宣言が出され、夏本番、本校もいよいよ夏休みがスタートしました。そして翌週7月22日(月)から二、三年生の進学課外(～8月2日)・集中講義(～8月6日)、全学年の補習(～8月6日・8月28日)が開始。暑い夏が始まりました。

人生で、自分に合った一冊の本を見つけられた人は幸せです。読書をしていけば、たくさんの中の中から自分の心を、自分の生き方を変えてくれる「人生一冊」の本が見つかると思います。7月17日(水)の全校集会で、この夏、生徒の皆さんが読書をするきっかけになればと思い、この「人生一冊」というお話をしました。今回は、仰星学園高校の先生方お薦めの「人生一冊」と7月18日(木)サマーフェスティバル「海水浴in志賀島」様子をお届けします。



【上】7月18日(木)本校伝統のサマーフェスティバル「海水浴 in 志賀島」解散前の諸注意の様子



志賀島の海岸線に生徒の笑顔がはじける。夏休みの初日の思い出が青春の1ページに記された。

仰星学園高校先生方の「人生一冊」

- ①「山椒魚」 (井伏 鱒二)
- ②「火花」 (又吉 直樹)
- ③「グリッドやり抜く力」 (アンジェラ・ダックワース)
- ④「竜馬がゆく」 (司馬 遼太郎)
- ⑤「ささぶね船長」 (永井 萌二)
- ⑥「かくれんぼ絵本「ミッケ!びっくりハウス」
- ⑦「君の臓物を食べたい」 (住野 よる)
- ⑧「あの時やってあげばよかった」といつまでもお前は言うんだ (武藤 良英)
- ⑨「夜のピクニック」 (恩田 陸)
- ⑩「グッドラック」 (アレックス・ロビラ、フェルナンド・トリアス・ベス)
- ⑪「永遠の0」 (百田 尚樹)
- ⑫「翻訳できない世界のことば」 (エラ・フランシス・サンダース)
- ⑬「20代で得た知見」 (F)
- ⑭「氷点」 (三浦 綾子)

【コメント】

- ①すぐ読める短編小説ですが、内容は深いです。自分の不注意とはいえ不自由な場所に閉じ込められて身動きがとれず、他人の粗を探して罵ることで自分自身を慰めますが、それが羨望や嫉妬だと気付いてしまった途端、自分は孤独なのだと知ってしまいます。「ああ、寒いほど独りぼっちだ！」という山椒魚のセリフに彼の孤独感が、悲しいまでに染み出ています。うっかり岩屋から出られなくなってしまった山椒魚というコミカルな内容から、想像もつかないほど人間の心理の闇に切り込んだ作品です。また孤独という誰しもが抱く感情に寄り添う作品だからこそ、多くの読者に愛されてきました。孤独な世界にどっぷりとつかるとはならず、人との関わりを持つ夏休みになればと思います。(和田先生)
- ②友が増えた絵本です。(柿並先生)
- ⑬英語が苦手な人も新しい価値観に触れられるかもしれません。(竹中先生)



海岸線を歩いていた先生。生徒につかまり、当然海にドボン！

【上】先生方も生徒と大はしゃぎ



お楽しみのお昼ごはん。お弁当を配布して下さる先生方



相撲と二、三年対抗騎馬戦も始まる



青春ど真ん中